

三沢抄

御書新版 2014年1行目〜4行目
御書全集 1489頁 15行目〜17行目

この法門出現せば、正法・像法に論師・人

師の申せし法門は、皆、日出でて後の星の

光、巧匠の後に拙きを知るなるべし。この時

には、正像の寺堂の仏像・僧等の靈驗は皆き

えうせて、ただこの大法のみ一閻浮提に流布

すべしとみえて候。各々はかかる法門にちぎ

り有る人なれば、たのもしとおぼすべし。

通解

この法門が出現するならば、正法時代や像法時代に論師や人師が説いた法門は、どれも、日が出た後の星の光のようなものであり、名匠が出た後に（以前のものの）拙さが分かるようになるだろう。

この時には、正法・像法の寺院の建物にある仏像や僧たちの利益は全て消え失せて、ただこの大法だけが全世界に流布するであろうと説かれている。

あなた方は、このような法門に縁ある人なのだから、頼もしく思いなさい。

語句

正法

仏の滅後の三つの時代区分「正法」「像法」「末法」の一つ。

正法時代のこと。仏法が正しく実践される時代。

像法

仏法が形式化、形骸化する時代。

論師

「論」を著して仏法を宣揚する人。例えば、正法時代の竜樹、世親（天親）など。

人師

論師に対する言葉。「経」「論」を解釈して人々を導く人。例えば、像法時代の天台大師や妙楽大師など。